

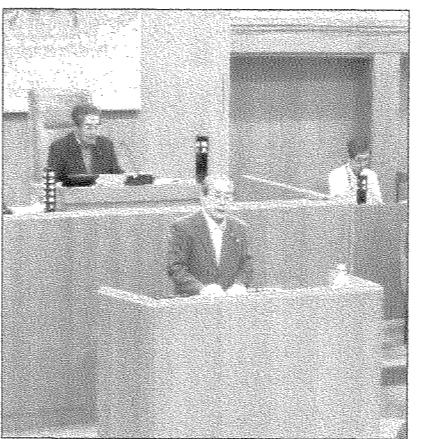
## 国や県と連携し準備すると答弁

9月議会の一般質問で大谷市議は、豪雨災害対策で雨水貯留施設の整備の取り組みについて質問。市は施設の整備のために国や県と連携し、補助金の活用などの取り組みについて「準備していく」と答弁。

大谷市議は雨水対策基本計画の取り組みを今後どう進めるか質問しました。

上下水道局長は「ハーデ

对策として、今後は城内雨水幹線の河床掘削による河川断面の拡幅工事の継続、



## 雨水排水対策をどうするか

平成29年の九州北部豪雨による災害時、花月川は毎秒1700tの水量が流れています。国土交通省は河川整備計画を見直し、毎秒1400tが流れる

計画にして丸山、吹上地区の河川を拡幅する整備計画を発表、あわせて市も隣接する都市計画道路の整備を計画してしまいます。

ついて市の説明責任が求められます。各施設と協議するための準備をすべきではないかと質問しました。

局長は「現在行ってない。

今後準備していきたい」と答弁しました。

### 国の補助金の活用について

新たに三本松新町の雨水幹線の改修工事を進める。雨水貯留施設については今後関係機関と十分な調整を進めいく」と答弁しました。計画書で一時貯留施設について桂林小、咸宜小、日田高、日田林工などのグランドでの整備計画はあります。具体的な協議は始まっています。小学校哉や高校の施設のグランドに貯留施設を整備するには、一時に使用が出来なくなるので貯留施設の必要性に



## 雨水貯留施設の整備の取組み

## 花月川の河川と道路の整備計画

## 空き家の調査、3名が協力

丸山、吹上地区の河川改修計画や都市計画道路整備に伴い、空き家を利用することができるか、住民の意向を調査するため市が空き家の調査を実施してこます。大谷市議はその結果について質問しました。

土木建築部長は「地区内の移転を望まれている住民要望を踏まえて、地区内の空き地・空き家に関する状況把握も必要だ」の件の中間集計です。

大谷市議は丸山、吹上地区への住民説明会に参加し、住民から出された意見・要望を踏まえ「豪雨時の内水氾濫はポンプだけに対応できる状況ではない。花月川の右岸左岸には一定の貯留施設を整備して

これからポンプで配水すれば」とが必要ではないか。国と協議をしてしまひつか」と質問。上下水道局長は「現在、国の

筑後川河川事務所ではシミュレーションを行っており、国との調整会議の中で意見を述べてきました」と答弁しました。